



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成16年5月発行
富山県立大学学生委員会

NO.63

平成16年度入学式

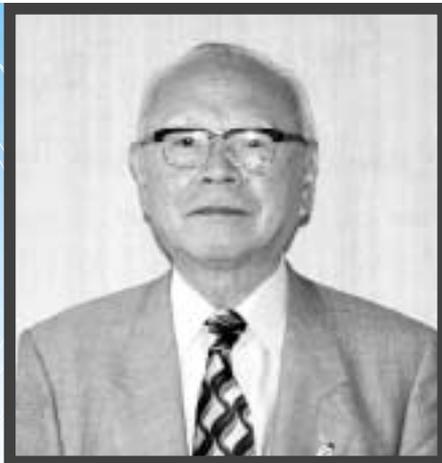


CONTENTS

藤井初代学長の追悼
News Digest
新任教員紹介 など

追悼

藤井初代学長の追悼



本学の初代学長藤井澄二先生が1月30日、急性心不全のため逝去されました。藤井先生は、本学創設準備委員会委員長として、また、初代学長として、本学の創設、発展にご尽瘁されました。藤井先生のご冥福を心からお祈りいたします。

略歴

大正9年12月14日
神奈川県生まれ
昭和17年9月
東京帝国大学第一工学部機械工学科卒
昭和22年7月
東京帝国大学助教授
昭和28年9月～29年8月
米国マサチューセッツ工科大学客員教授
昭和31年3月
東京大学教授
昭和53年4月～55年4月
東京大学工学部長、工学研究科長
昭和56年4月
東京電機大学教授
昭和56年5月
東京大学名誉教授
平成元年4月～2年3月
富山県立大学創設準備顧問
(富山県立大学創設準備委員会委員長)
平成2年4月～
東京電機大学名誉教授
平成2年4月～9年3月
富山県立大学長
平成9年6月～
富山県立大学名誉教授

専門分野

機械振動学、制御工学、ロボット工学、
車両工学

著書

「機械力学」共立出版、
「制御工学」岩波基礎工学 他

受賞歴

紫綬褒章(昭和61年4月)
勲二等瑞宝章(平成9年4月)



富山県立大学長 中島 恭一

藤井澄二先生の突然の訃報に接し、誠に悲しみに堪えません。春まだ遠い一月三十日の正午前、先生は、ついに黄泉路へ旅立たれました。

先生の訃報に接し、「巨星墮つ」とただ茫然とするばかりであり、深い悲しみで一杯であります。

昨年、お見舞い申しあげた折、本学や富山県の近況について、先生は、わが子を愛でるような眼差しで、まさに全身でお聞きくださいました。御身大切なときにありましても、本学のこと、富山県のことを親身に気にかけてくださるご様子に、感謝の念を禁じえず、目頭が熱くなったことを覚えております。

遠く富山への赴任を決断され、中沖知事とともに本学を産み育てられた偉業を思い起こすとき、今更ながら、先生が富山県で残された足跡の大きさに驚いております。

是非、もう一度富山へお越しいただき、先生が愛されてやまなかった「八尾のおわら」を観てもらいたかったと、本当に残念でなりません。

ご家族の皆様の悲しみもいかにばかりかと存じます。ここに、心からお悔やみを申しあげます。

先生には、本学の創設準備委員会委員長として、また、初代学長として、本学の創設、発展のために、全身全霊を尽くしていただきました。

先生は、温厚かつ篤実なお人柄で、教職員はもとより多くの学生から愛された本当にすばらしい方でありました。また、先生の何事にも常に真摯に、そして誠実に取り組まれる姿勢には、多くの者が強く胸を打たれました。

本学の「産みの親」であり「育ての親」でありました先生を、私たちは、永遠に忘れることはできません。

お陰をもちまして、本学は就職に強い大学として高い評価を受けるに至っておりますが、厳しい大学間競争のなか、先生には、これからも大所高所からのご助言を賜りたいと思っておりましただけに、先生を失いましたことは、誠に残念でなりません。

私どもは、先生のご遺志を受け継ぎ、開学十五周年を迎える富山県立大学を一層発展させていくことを誓います。

先生、どうか、富山県立大学、そして富山県の発展を、いつまでも温かく見守ってください。

藤井澄二先生を偲んで



工学部
機械システム工学科
助教授
大島 徹

藤井澄二先生との出会いは、大学院での制御工学特論の講義が最初でした。開設したばかりの大学院で学生は私一人のみ、先生の前で課題を解き、その都度、先生が詳しく解説をして下さり次へ進むというものでした。

毎回、「分かりませんか？では最初へ戻りましょう」とおっしゃって、深夜にまでおよぶのが常でした。今にして思えばなんと贅沢な講義だったのでしょうか。さらに、先生には主査として私の学位論文の審査をしていただきました。先生からは何度も再実験を命ぜられ、結果のまとめ方から文章の一字一句まで丁寧に指導いただきました。結局、予備審査から学位授与まで1年7ヶ月を要し、挫折しそうになるたびに叱咤激励をいただきました。最後に、「これで君を研究者として認めたわけではありません。スタートラインに立つことを認めただけです」という厳しいお言葉をいただきました。

その後、先生には研究論文等をお送りしていましたが、ある晩、「私の仲間として富山県立大学の開学に力を貸して欲しい」というお電話をいただき、ご挨拶にお伺いしたとき、はじめて満面の笑みで、「よく頑張っていますね」と温かく迎えて下さいました。本学の教員として主に制御工学の講義を担当することとなり、最初に参考にしたのが先生の講義ノートでした。本学で新たな研究に着手するとき、最初に助言を下さったのも先生でした。先生ならどう教えるだろうか、先生ならここで妥協するだろうか、先生なら・・・、いつも先生の厳しくそれでいて温厚なお顔を思い浮かべながら過ごしてまいりましたが、その先生にお会いできなくなった今、先生のご存在は私の心の中でさらに大きく膨れ上がっています。

これまで公私にわたり親身になってご指導いただいた先生に衷心よりお礼申し上げ、先生の名に恥じることなく研鑽を積むことをお誓いし、ご冥福をお祈り申し上げます。

藤井初代学長の思い出



短期大学部
環境システム工学科
教授
楠井 隆史

私が初めて藤井先生をお見かけしたのは1970年代後半の東京大学での大学院生時代にさかのぼります。当時、工学部8号館には都市工学科と機械工学科が同居していました。しばらくしてエレベータの中で出会う背の高い白髪の温厚な紳士が隣の機械工学科の藤井先生であると知りました。

県立大学の初代学長となられた藤井先生との思い出には、1994年の教授会での質問をめぐってのエピソードがあります。その年、たまたま私の出していた研修計画が認められた結果、短大部の海外研修費が事実上、なくなってしまいました。心苦しさもあり「大学として海外での学会発表を奨励しているならば、何とかならないか」という趣旨の発言を教授会で行いました。その後、学長が海外研修費に申し込んでいた教員のためにある財団へ推薦文を書かれ、無事、補助を受けることができたことを当時の事務局長を通してお聞きしました。

また、現在の短大部専攻科の設置の際にも、藤井先生に大きなお力添えをいただきました。1996年5月から短大部の将来構想検討委員会が発足し、専攻科や4年制への移行などを視野に入れて検討を重ねていました。年明けの1月、藤井学長から専攻科設置を急がないかとの打診がありました。検討の結果、急遽、準備委員会を立ち上げ、開設に向けた作業に着手し、1998年に専攻科を開設することができました。爾来、2003年度まで91名の修了者を出し、短大部全体が活性化されました。藤井先生の決断が現在の短大部専攻科体制の基礎を固めたといっても過言でないと思います。

ちょうど専攻科開設の直前に退職され、第一回の専攻科修了生の姿をお見せすることができなかったのが心残りです。心よりご冥福をお祈りいたします。

平成15年度

学位記および卒業証書授与式

3月25日、大谷講堂において、平成15年度富山県立大学学位記および卒業証書授与式が行われました。

式では、中島恭一学長が「美しい自然に囲まれたこの富山の地で学生生活を送られたみなさんが、やがて世界や日本を舞台に大活躍されることを強く期待しています」と、式辞を述べられました。

また、澤合敏博富山県出納長が「今後様々な場面で多くの困難や課題に直面されることもあるかと思いますが、確固とした高い志を持って、新たな可能性に果敢にチャレンジしてください」と知事の告辞を代読されました。

授与式に併せ、各学科において成績優秀と認められた学生1名に、学長よりベストチューデント賞が贈られました。受賞された方は、次のとおりです。



工学部機械システム工学科

西谷 一光

工学部電子情報工学科

塩原 徹矢

短期大学部農業技術学科生物生産専攻

浅野 友香

短期大学部農業技術学科農業土木専攻

松井 彰

短期大学部環境工学科

吉田 有良

平成16年度入学式

4月6日、大谷講堂において、平成16年度富山県立大学工学部と大学院工学研究科並びに短期大学部と短期大学部専攻科の入学式が行われ、343名の新しい学生を迎えました。

中島恭一学長は、「日本海側で屈指の工業集積を誇り、また自然が豊かな富山県での学生生活を通して、科学技術に対する素養と創造力を培って、社会で活躍できる確かな力を身につけられることを期待しています」と、式辞を述べられました。

また、大永尚武富山県副知事が「最先端の理論と技術、さらには広い視野と実践力を身につけた、次代を担うリーダーとして、大きく飛躍されることを願ってやみません」と知事の告辞を代読されました。

工学部の山田博和さん、大学院の榊原和宏さん、短期大学部の中村好恵さんが新入生を代表して「多くの出会いとふれあいを大切に、生涯にわたる人生設計の基礎となる学生生活を送りたい」と大学生活に対する決意を述べました。

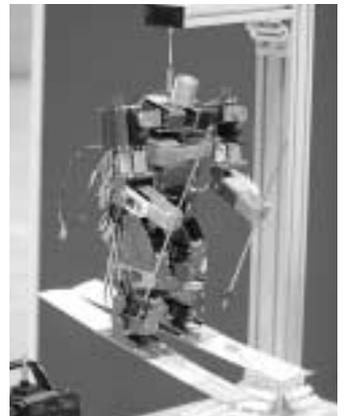
ロボットコンテストの開催

本学学生の創造力と技術力の向上を図り、ものづくり気運の高揚と大学のイメージアップを推進するために、3月2日に体育館でロボットコンテストが開催されました。

従来のコンテストのように、単に与えられた目的を達成するスピードや量を競うのではなく、参加チームがそれぞれ独自に開発目標を定めて、その目標に対する達成度や完成度を競いました。

コンテストでは、三つのグループが跳躍ロボットや人間型スキーロボット、インターネットによる遠隔ロボット制御の研究の成果を発表しました。

中島学長、田中ロボットコンテスト実行委員長、東野事務局長の厳正な審査により、以下のとおり表彰されました。



クリエイティブ賞

ウサギさんチーム

バイオメタリック跳躍ロボットへの挑戦

テクニク賞

シロクマさんチーム

人間型スキーロボット姿勢制御への挑戦

〃

インターネットロボット研究会

インターネットによる遠隔ロボット制御への挑戦

ドリーム賞

〃

〃

新任教員紹介



工学部教授

さかき とし ゆき
榊 利之

(生物工学研究センター)

4月1日付けで生物工学研究センター教授として着任しました、榊 利之(さかき としゆき)と申します。これまで酵素の構造と機能の解明、遺伝子工学を用いた酵素の改良などに携わってきましたが、今後は機能性食品の分野を中心として研究を進めていく予定です。

住友化学工業(株)に14年間、住友製薬(株)に3年間在籍した後、京都大学農学研究科に7年間在籍し、こちらに参りました。住友化学工業(株)と京都大学においては酵素の応用を目的とした研究に携わり、住友製薬(株)では遺伝子治療用ベクターの開発に携わりましたが、分子生物学のめざましい発展とともにエキサイティングな研究生生活を送ってきました。富山県立大学においては、これまでの経験を生かし、学生の皆さんにバイオテクノロジー分野の研究の面白さを分かってもらえればと思っています。

神戸で生まれ、大学時代は京都、企業では大阪と、京阪神から出たことがなく、富山県のことはほとんど知らなかったのですが、立山連峰の美しさや魚のおいしさに驚いています。素晴らしい自然の中で、きらりと光る研究ができればと思っていますので、よろしく願いいたします。



工学部助手

なか た たか ゆき
中田 崇行

(電子情報工学科)

4月1日付けで電子情報工学科に助手として着任いたしました中田崇行と申します。情報工学講座の安井直彦教授、松田弘成助教授の御指導のもと、研究・教育を通して地域や企業に貢献できますよう努力して行きたいと考えております。ちなみに名字の読みは「なかだ」ではなく「なかた」ですので、そう呼んでいただくと当人大変喜びます。

着任から現在まで、スーツを着ているにもかかわらず学生に間違えられること度々ですが、今回顔写真つきで自己紹介されることで、そのようなハプニングも少なくなるかと思うと少々残念です。しかし、もし私に何か至らない点がございましたら、学生に対する場合と同じようにしっかりとお伝えいただければ非常に幸いです。

研究分野は物体認識および計測、タッチパネル、3Dディスプレイ、全方位画像の活用法といろいろやっております。「画像を利用して何かをする」という点が共通項です。本学の様々な分野で最先端を走る先生方や企業の方と話し合い、いろいろな発見が得られることを今から楽しみにしております。

以前に住んでおりました横浜も食べ物はおいしかった土地ですが、ここ富山の海産物のおいしさは格別で、最近久しぶりに「ますずし」を食べたときは感動のあまり泣きました。これからまだまだ泣けるかと思うと楽しみです。おいしい食べ物でしっかりと栄養をつけて、頭と体をフル回転させて皆様のお役に立てますようがんばっていきます。どうぞよろしく願いいたします。

春季公開講座

[テーマ]
子どもと家庭教育

小杉町民総合学習講座 (特別講座)の開催

本学では、地域に密着した大学として教育研究の成果を広く社会に理解してもらい地域社会の発展と生涯教育の一助とすることを目的に、高校生以上の方を対象に春季公開講座(受講料無料)を開講します。今回のテーマは「子どもと家庭教育」です。

- 【開催日】平成16年6月5日、7月3日
【場所】小杉町民図書館2F多目的会議室
【受講定員】100名程度(先着順)
【受講料】無料
【修了証】2日間受講した方に「修了証」を授与します。
【備考】修了者に県民カレッジの単位(5単位)が認定されます。
【講義スケジュール】(13:00~受付開始)

月日	時間	講義題目	講師等
6/5	13:30~13:45	開講式	小杉町教育長 稲葉茂樹
	13:45~14:45	今、家庭教育で大切なこと	富山県立大学教授 奥田実
	15:00~16:00	平安貴族の子どもと教育 -「源氏物語」を中心として	富山県立大学教授 中哲裕
7/3	13:30~14:30	心と身体を育てる家庭教育	富山大学名誉教授 宗孝文
	14:45~15:45	子どもの身体発達の特徴と 体育教育	富山県立大学助教授 岡本啓
	15:45~16:00	閉講式	富山県立大学地域連携センター所長 植松哲太郎

【申込方法】

5月28日までに所定の申込書(下記問合せ先にご請求ください)を小杉町教育委員会生涯学習課へ持参又は送付するか、FAX(0766-56-7771)でお申込みください。

【問合せ先】

小杉町教育委員会生涯学習課 〒939-0393 射水郡小杉町戸破1511
TEL 0766-56-1511(内線1162,1163) FAX 0766-56-7771
富山県立大学地域連携センター 〒939-0398 射水郡小杉町黒河5180
TEL 0766-56-7500(内線234) FAX 0766-56-6182
URL <http://www.pu-toyama.ac.jp> E-mail renkei@pu-toyama.ac.jp

博士の学位授与報告

3月25日(木)の学位記及び卒業証書授与式において、博士(工学)の学位を授与された方の氏名と論文題目は次のとおりです。

【課程博士】

機械システム工学専攻

石坂篤幸

動的粘弾性解析に基づく吸水した高分子/炭素繊維複合材料の特性評価に関する研究

鳥海清司

二関節筋機能の跳躍ロボットへの応用

針山典篤

アルミニウム合金押出型材の寸法精度向上に関する研究

二ノ宮進一

フローティングノズル法による研削特性向上に関する研究

生物工学専攻

和田浩一

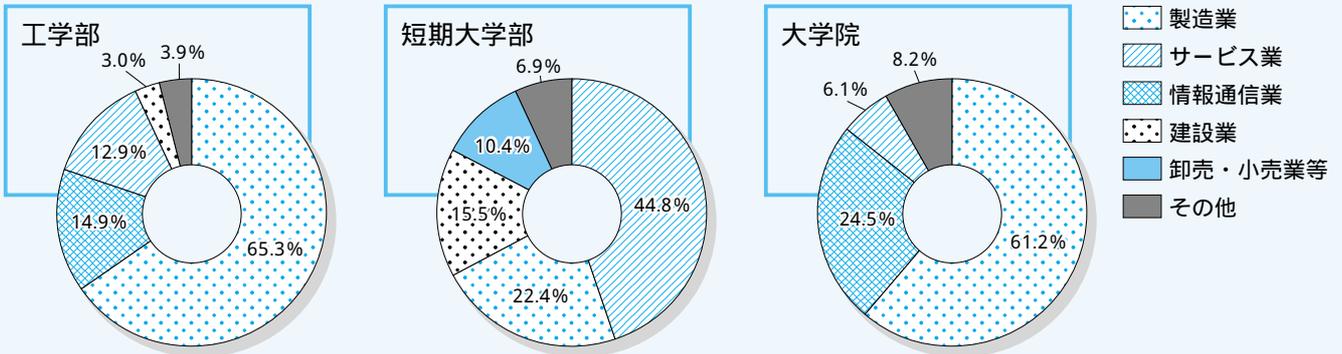
Studies on the Microbial Production of Pyridoxine 5'-Glucoside (微生物を用いたピリドキシン 5'-グルコシド生産に関する研究)

平成15年度卒業・修了生進路状況

	卒業・修了者数	就職者数		進学者数		
		うち県内就職	うち本学大学院又は専攻科	うち本学大学院又は専攻科		
工 学 部	158 (26)	101 (23)	51 (13)	57 (3)	53 (3)	
機械システム工学科	79 (7)	54 (6)	27 (3)	25 (1)	22 (1)	
電子情報工学科	79 (19)	47 (17)	24 (10)	32 (2)	31 (2)	
短 期 大 学 部	113 (59)	58 (28)	48 (24)	50 (30)	14 (9)	
学 科	農業技術学科	71 (38)	38 (17)	33 (15)	28 (20)	8 (6)
	生物生産専攻	40 (25)	18 (8)	15 (7)	20 (17)	5 (4)
	農業土木専攻	31 (13)	20 (9)	18 (8)	8 (3)	3 (2)
	環境工学科	27 (12)	11 (6)	11 (6)	16 (6)	4 (2)
専攻科	生物資源専攻	6 (4)	3 (2)	2 (2)	3 (2)	2 (1)
	地域環境工学専攻	9 (5)	6 (3)	2 (1)	3 (2)	0 (0)
大学院・博士前期課程	52 (8)	49 (8)	9 (2)	3 (0)	3 (0)	
機械システム工学専攻	18 (4)	17 (4)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	
電子情報工学専攻	24 (3)	24 (3)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	
生物工学専攻	10 (1)	8 (1)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	

()は女子内数

【業種別就職状況】



人事消息

異動区分	職	氏 名	異動区分	職	氏 名
就 任 (16 4 1)	附属図書館長	中 野 慎 夫	昇 任 (16 4 1)	工学部助教授	岡 本 啓
	地域連携センター所長	植 松 哲 太 郎		工学部講師	三 宅 壮 聡
	計算機センター所長	畑 田 稔		短期大学部教授	葎 田 隆 治
	短期大学部長	広 瀬 慎 一		短期大学部助教授	渡 部 友 子
新 採 (16 4 1)	工学部教授	榊 利 之	短期大学部助教授	短期大学部助教授	渡 辺 幸 一
	工学部助手	中 田 崇 行		短期大学部助教授	瀧 本 裕 士
転 入 (16 4 1)	事務局次長	宮 下 修	教務課主任	教務課主任	米 澤 浩 太 郎
	事務局参与	高 森 勇		退 職 (16 3 31)	工学部助手
	総務課長	増 川 茂 則	短期大学部教授	短期大学部教授	小 林 哲 郎
	教務課主幹	下 川 雅 一		転 出 (16 4 1)	事務局次長
	総務課副主幹	佐 合 圭 一	事務局参与		砂 子 阪 政 己
	教務課工学部係長	杉 谷 正 俊	総務課長		小 松 裕
	教務課主任	中 島 克 英	総務課主幹		村 田 芳 朗
	教務課主任	沢 井 俊 男	総務課副主幹		仁 木 久 司
	総務課主事	谷 口 誉 典	教務課工学部係長		上 田 祐 紹
	教務課主事	小 沼 景 子	教務課主任		吉 野 実
			総務課主事		千 葉 慎 也
			教務課主事	関 谷 充 恵	

SCHEDULE

平成16年

大 学 院

工 学 部

短 期 大 学 部

6月1日
開学記念日

6月26 ~ 27
サークルリーダー研修会

6月

7月

8月7日
ダ・ヴィンチ祭
オープンキャンパス

8月

5日 -博士前期課程
入学者選抜試験

9日、28日 ~ 30日
-特別授業

6日 -専攻科生物資源専攻
入学者選抜試験

15日 ~ 16日 -特別授業

16日 -前期授業終了

20日 -前期授業終了

20日 ~ 8 / 2日 -前期試験

27日 -前期授業終了

21日 ~ 8 / 3日 -前期試験

2日 ~ 6日 -前期試験

10日 ~ 11日
-入学者選抜試験

CAMPUS NOTE

バスケットボール部



バスケットボール部は、毎週火、木、土曜日に本学の体育館で活動を行っています。先輩と後輩の仲もよく、楽しく活気のある部です。

北信越学生バスケットボールリーグの入れ替えを懸けた大会が毎年5月に行われています。昨年、一昨年ともにリーグ優勝し、三部Aへの昇格を果たしています。今年は、二部に昇格することを目標に頑張っています。

バスケットボールの初心者も大歓迎しますので、新入生の方は、是非一度見学に来てください。また、マネージャーも募集しています。

編集後記

県立大学では、平成16年度から私費外国人留学生を受け入れることになった。中国からの3人の留学生が工学部1年生となる。彼らが今後充実した日々を過ごせることと、日本人の学生たちが彼らと交流を深め、お互いよい刺激となることを望む。これまで、県立大学から、ニューヨークの大学に留学した学生もいる。就職後、企業から海外の大学に留学させてもらった卒業生たちの話も聞く。

若いうちのできるかぎり、外国の文化に触れるべきと思う。最近、長期休暇中に海外へ語学研修や旅行に行く県立大学生も増えてきた。アラスカでの、ロケット打ち上げプロジェクトに参加した者もいる。私は、8年前カナダのプリティッシュ・コロンビア大学での研修の際、日本人と欧米人、また他のアジア人との価値観を含む文化のかなりの隔たりを実感した。

カナダでの海外研修と言えば、故藤井初代学長を思い出す。私が研修に出発する前に、藤井先生は、ご自身が、今から50年前フルブライト委員会から招聘され、「氷川丸」という船で太平洋を渡り、アメリカの大学(MIT)に滞在した頃の体験談を綴った冊子『ボストン便り』を手渡してくださり、そのお話を聞かせてくださった。その時の先生の優しい眼差しと話しぶりが、脳裏に浮かぶ。

近頃、知り合いの訃報に接することが多い。年齢が上がれば、人の死に出会う確率が増す。この号が出来上がる頃には、桜の花は散っているだろう。「さくら」ブームのようだが、満開の桜は心を打つ。あっという間に散りいく桜に美を感じ、思いを込める日本人も多い。でも美しいが哀しい。今日、若者たちと、幼い子どもたちの生命が軽んじられている。花びらが散るのはいいが、命はすぐに散ってほしくない。「戦い」で、若い命が散っていくのは痛ましい。

(奥田)